

編み終わった後で



上は、前回の漆ぬりのコレクションに入りきれなかったもの。内部は竹で編んだかご。赤く塗った後で籐を編みつけてある。ビルマのライスボックスということだ。

このように、出来上がった籠に何らかの理由で、プラスチックの要素が加わることがある。



わかりやすいのがこれ。商品としての魅力をアップするために装飾したのだろう。立体的な刺繍が可愛い。



このアフリカのコイリングのかごの底には動物の皮が縫い付けられている。底の補強なのだろうが、美しい。



上はカメルーンのかごと値札に書いてあった。外側に細いテープ状の葉が全体を覆うように縫い付けられている。断定はできないが、かごの目からこぼれ落ちる何かを中にとどめる効果を期待しているのかと思う。吊り下げて使うような紐が付いている。何を入れるのだろう。



これは、オランダへ行ったときに買ったイリアンジャヤ(ニューギニア)の袋だが、横網代に細かく編まれた平面をキャンパスに絵を描いている感じ。境目は刺繍された立体的な線。塗る、染めるとかいうより擦り込んで色と素材が一体化している感じ。裏に色は届いていない。

10センチのミニかご
黒塗りの竹製。薄い布の
ミシン縫いされた内張り、
黒塗りの木製のハンドル付。
ベトナム製。

2014年、埼玉県越谷の
100円ショップで購入。1013
税込みで108円!!

